

犬の興奮時の発咳に対する漢方薬・生薬の使用経験

Clinical evaluation of herbal medicine and crude drugs for cough when excited in dogs

橋本昌大

Yoshihiro HASHIMOTO

高草山どうぶつ病院

Takakusayama animal clinic

はじめに

興奮時の発咳を訴える小型犬は多い。“心臓性の発咳”の機序は、心拡大との関連で説明されることが多いが、不明な点も多い。興奮時にのみ発咳を起こす症例に対して漢方薬・生薬の有効性を検討した。

症例 1

チワワ、オス（不妊処置済）、11 歳、体重 3.0kg、BCS3、主訴 興奮時の発咳。一般状態良好。心雑音 (-)、軽度の心不全と診断し、地竜（ミミズエキス製剤）内服にて治療開始した。経過は良好で興奮度の低下とそれに伴う発咳は明らかに減弱した。地竜は、ミミズの乾燥したもので古くから用いられている生薬である。解熱作用・降圧作用・気管支拡張作用・鎮静・抗痙攣作用などの効果を持ち、漢方的には清熱瀉火・定驚・通経絡・止咳に用いる。慢性気管支炎・喘息・流行性耳下腺炎・高血圧・癲癇・トラコーマなどの治療に使用。近年は、ルンブルクスルベルス（食用赤ミミズ）から抽出される酵素が、ウロキナーゼ様活性（血栓溶解）t-PA 様活性（線溶活性）を持つことから血栓症の治療・予防に使用されることも多い。

症例 2

ポメラニアン、メス（不妊処置無）、8 歳 5 か月、体重 3.5kg、BCS3.5、主訴は、散歩に出ると咳がでる。一般状態は良好。周囲の環境に過剰に反応している様子が見て取られ、交感神経過緊張に有効な抑肝散に地竜を加え処方した。現在も転居などのストレス

下にあるため、抑肝散加地竜の継続にしているが、発咳は安定している。陰虚証の傾向があるため、今後、六味丸・紫河車（胎盤製剤）などの使用を検討している。

症例 3

チワワ、オス（不妊処置済）、12 歳、体重 2.8kg、BCS 2.5。主訴 1 年前から時々咳をしている。一般状態は良好との訴えだが、心拡大および気管の変性を認めた。他者に対して過剰な反応を示し、交感神経過緊張が認められた。アンジオテンシン II 受容体拮抗薬 ARB（テルミサルタン）0.5mg/kg,po,sid に半夏厚朴湯を加え処方した。半夏厚朴湯は、神経過敏で精神的にも肉体的にも硬くなる持続性緊張に用いられることが多い。投与後、発咳の減弱が認められたが、植物性生薬の半夏厚朴湯を飲まなくなったとのことで、動物性生薬の地竜に変更した。その後も、状態は安定している。

その他の症例

牛黄配合製剤も一般状態良好で興奮時のみ発咳する症例に有効性を経験している。牛黄は、ウシの胆嚢結石で中枢性鎮痙作用、鎮静作用、解熱作用がある。漢方的には、清熱瀉火・涼血・解毒・定驚の効果。代表的製薬として六神丸、宇津救命丸、樋屋奇応丸、救心などがある。蟾酥、牛黄、人参などの循環器に働く生薬と鎮静・緊張緩和作用のある羚羊角、真珠などが配合されている。医療用漢方処方としては、緊張・過度の興奮が主たる原因であれば、半夏

厚朴湯、抑肝散。慢性心不全によるうっ血・心拡大であれば、木防已湯、炙甘草湯。副鼻腔炎、気管支炎などの感染や炎症がある場合には小柴胡湯、柴苓湯などを用いてきた。また、民間療法としてオオバコ（車前子・車前草）も、気管支炎、気管支喘息、感冒などの咳嗽に効果があるとされている。

まとめ

興奮時の発咳は、原因が多様であり、安易に診断すべきではない。しかし、感染症や気管・気管支に異常がなく運動不耐性などの心不全徴候がない場合には、漢方薬・生薬治療は有効であった可能性がある。現実的には詳細な検査が実施できず、試験的な

投薬にて改善を認めた例もある。使用した漢方・生薬には、興奮を鎮め、炎症を抑える、更に気管支拡張作用・降圧作用が認められている。漢方独特の清熱作用と抗炎症作用が精神的要素、循環器、呼吸器に働きかけている可能性を感じている。また、漢方では症状を単純に排除するのではなく、身体の意味ある反応として捉えるため、咳という病態を再検討したいと考えている。今後、症例の蓄積を図り、有効性を確立すると共に、処方を選択にあたって病態の整理を行いたい。なお、漢方エキス剤の投与量は、成人量に対して～5kg：約1/7、5kg～15kg：1/7～1/2、15kg～：1/2～1を1日2回食前または食間に服用を目安とした。